

圓正寺板碑(比企郡鳩山町)

えんしょうじ

ここが圓正寺





麗倒觀世音





近くの畑から出土した銅製の雲板(食事の合図などに打ち鳴らす仏法具)が保存されているという/応安4年(1371)の銘があるという



埼玉県指定有形文化財

雲板

指定年月日 平成12年3月17日
 所在 大字赤沼内正寺
 時代 南北朝時代

雲板は、鎌倉とともに鎌倉時代に中国より伝来した仏法具である。青銅や鉄でつくられ(銅製品)、主に禅宗寺院の庫裏・食堂などに懸けて食事の合図などに打ち鳴らされた。

内正寺の雲板は、昭和8年に本堂近くの畑地から偶然出土した。大きさは、長さ44.0cm、幅39.5cmを測る。頂部の中心に円い開手孔があり、頂部は蓮華文を鏤出している。雲板の時代的特徴は、各部位の形状等に認められるが、本雲板は、頂部の幅が狭く、頂部から上の部分の割合が全体に対して比較的小さい。また頂部の形状はトサカ状を示し、頂部中央が平らにならない。開手孔は1個で、その位置が頂部に近いほど新しい傾向があるが、本雲板には、まだそうした傾向は認められない。このほか、蓮・梅・龍巻等の各部位にわたり、應永銘文年代である南北朝時代の特徴が認められる。なお、銅部は新手法になるものが一般的であるが、本例はゆるやかにカーブするのみで通常とは異なる。



(複製)

雲板の表面には、「武州入高津町龍巻禅寺」「性持比丘通正師之」「應安四年辛未印月朔吉」「大工堂刺兼弘」(應安四年=1371年)の銘文が刻まれている。鳩山町は中世後期以降の小規模寺院の聖として知られているが、銘文中の大工堂刺兼弘は、小規模寺院の前身を考える上で注目される人物である。

平成13年10月30日



彩の国さいたま

埼玉県教育委員会
 鳩山町教育委員会





これが「圓正寺の板碑」/中央の大きな板碑には、元享4年(1324)と刻まれている



本堂







鬼瓦がある





全景



参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/vokohamasi/kaminomichi-10.html>

<http://blog.goo.ne.jp/musshu-yuu/e/828d07d4208d86c3a9b686349e937229>

http://chikatsu-lab.g.dendai.ac.jp/doyamashita_gis/enshoji.html

<http://www.asahi-net.or.jp/~ab9t-ymh/kakuchi/moroyama01/hatoyama1.html>

<http://www.astrophotoclub.com/hatoyama/hatoyama.htm>

